

日々の田高（理数研究校 国立科学博物館の先生をお招きした講演会）

7/31（木）、理数研究校の取り組みとして、生物科では、国立科学博物館生命史研究部の神澤秀明先生をお招きして、「古代 DNA の分析による日本人のルーツの解明について」講演会を行いました。

今回講演していただいた内容は、古代の人骨資料に含まれる DNA を分析して、人類集団の起源を解明する研究内容でした。古代人の人骨を用いて、性別判定、年齢推定、病変等の調査、DNA の採取・分析を行い、ルーツの解明に取り組んでいるそうです。

「縄文人とはどのような人々か？」「弥生人とはどのような人々か？」という問いに対して様々な仮説が提唱されています。

縄文人の祖先集団は東南アジア由来であり、縄文時代から弥生時代の移行期に北東アジア系統の集団が渡来し、混血したとされる「二重構造モデル」がかつてから有力な仮説でした。しかし、北東シベリア集団と東アジア集団が混血したのち、渡来し、縄文人と混血したとする２段階にわたって大陸から遺伝的に異なる集団が流入したとされる「３系統説」も新たに提言されていて、今後の議論のゆくえが注目されます。

日本人の祖先はどこから来たのかという問いをもとに、形質人類学、考古学、遺伝学など多分野のアプローチがされている研究内容であり、生物以外に歴史的な興味も新たに刺激され、教科横断的学問の深さに生徒たちは興味を持っていました。

講演後、生徒からは、「今度、国立科学博物館にいつてみたい。」「ゲノム（生物の持つ遺伝情報）から古代人の顔の復元ができることに驚いた。」など、科学への興味の声が聞かれました。

自身の祖先のルーツの都道府県から、自身は「縄文人度合い」が高いかどうかと、生徒同士で講演内容を自身に当てはめて考えている様子が見られました。勇気をもって神澤秀明先生に直接質問する生徒が複数見られ、進化人類学の世界への理解をより一層深めていました。

今回の経験を通して、文理問わずどのような進路選択をしても学問を探究することは面白いことであると気づいてもらえると嬉しいです。科学は日常生活のあらゆるところに存在しています。授業で学んだこととのつながりを見つけて、今後の博物館での理解を深め、学習に対する意欲の向上に生かされていくことを期待しています。

